

2021年度北陸ユネスコスクール実践交流会
2021年12月4日
オンライン開催

SDGs達成に向けたESD及び ユネスコスクールの最新状況

(特定非営利活動法人)

持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)

ユネスコスクールに関するユネスコの方針

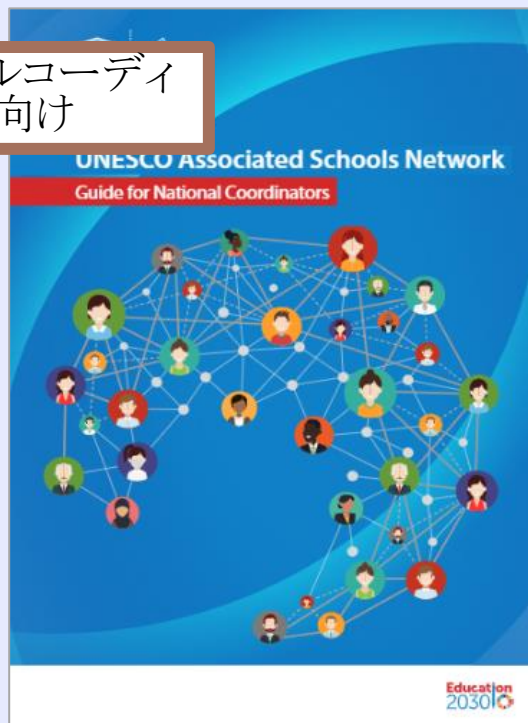
ASPnet Guide for Members



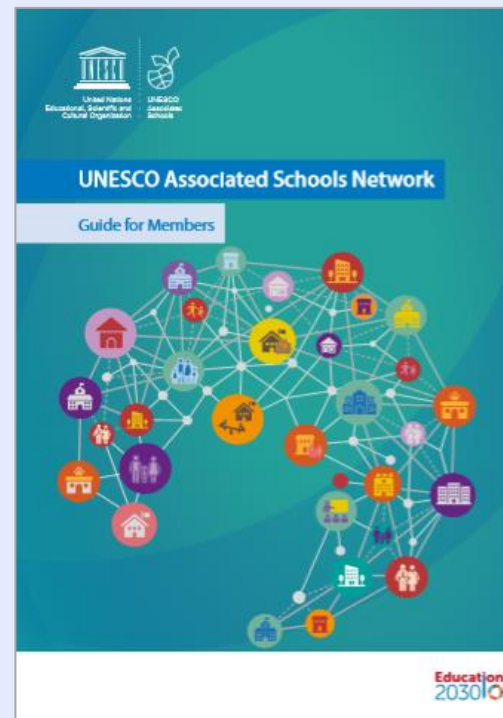
ユネスコ本部が発行したユネスコスクールに関するガイドブック

2018年にナショナル・コーディネーター向けのガイドが、2019年にメンバー（学校関係者）向けのガイドが発行された。

ナショナルコーディネーター向け



学校向け



UNESCO Associated Schools Network
Guide for National Coordinators(2018)

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000261994>

UNESCO Associated Schools Network
Guide for Members (2019)

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000368992>

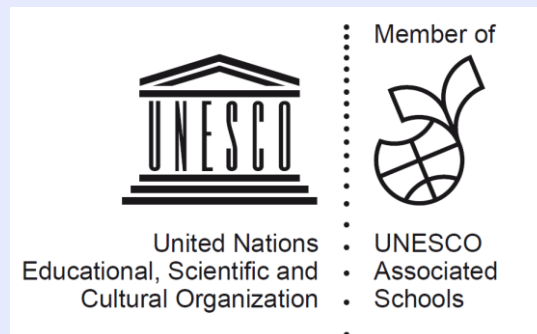
UNESCO websiteを基に作成

Guideの内容



加盟のメリット

- ◆ グローバルな学校コミュニティの一員になること
- ◆ ユネスコの専門知識や指導・学習リソースへのアクセス
- ◆ ユネスコのプロジェクト、キャンペーン、コンテストなどへの参加機会
- ◆ 特定の会議やフォーラムなどへの参加機会（国内／国外）
- ◆ Online Tools for ASPnet (OTA)の利用
- ◆ ロゴの使用



Guideの内容



加盟継続のための義務

- ◆ 年間活動計画書、年次活動報告書を年1回NCに提出
- ◆ ユネスコまたはナショナルコーディネーターが提案する活動に少なくとも年1回参加
- ◆ OTAのASPカレンダーにある国際デーの記念行事を全学校コミュニティの参加を得て毎年2回以上実施
- ◆ 学校コミュニティ（教職員、保護者、地域など）にユネスコスクールであることを周知（ユネスコスクール加盟校の一員であることを表示）
- ◆ OTA上の学校情報を毎年2回以上更新

Guideの内容



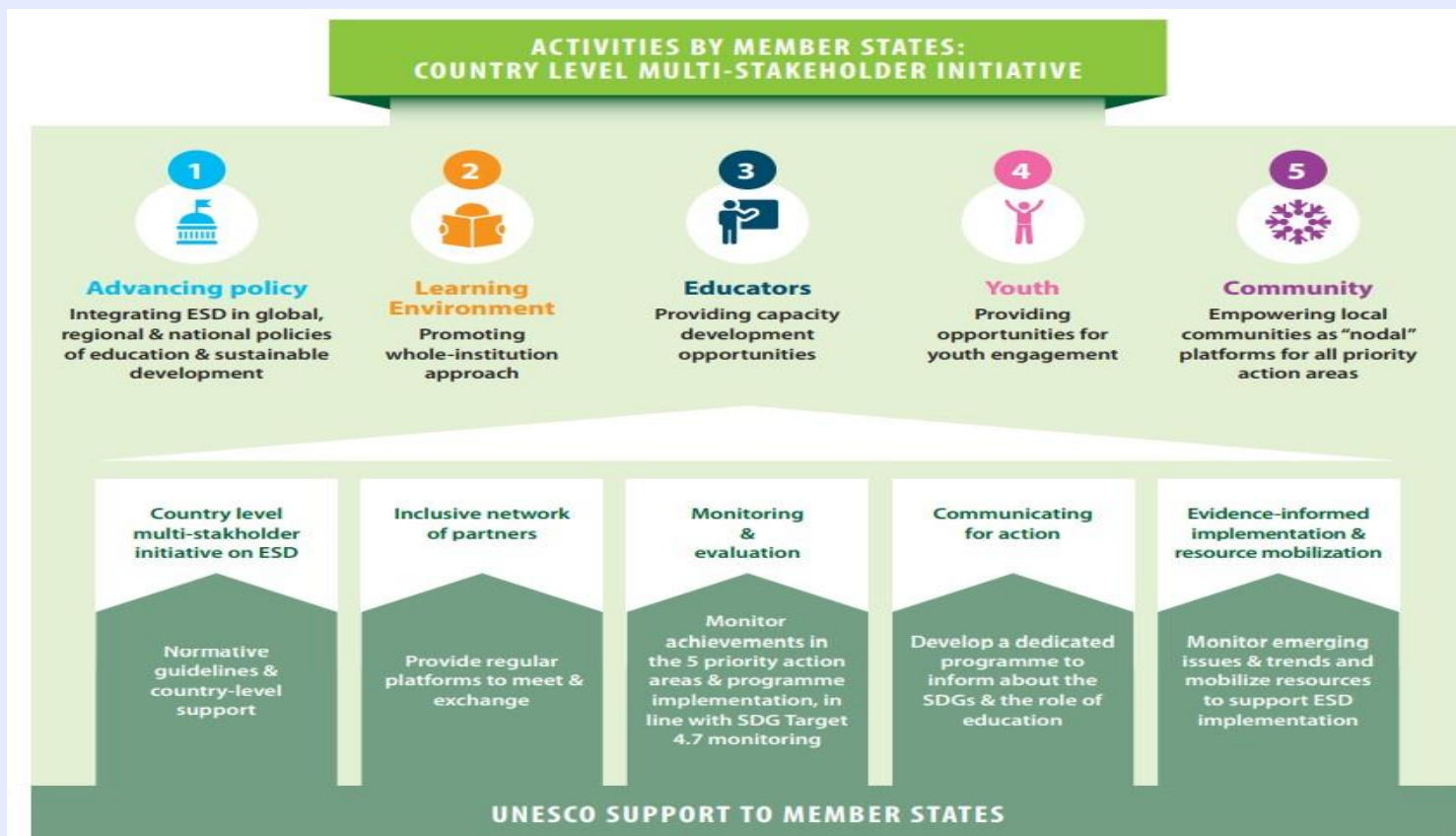
活動のポイント

- ◆ ホールスクールアプローチを推進する。
- ◆ 校内にユネスコスクール担当（フォーカルポイント）を配置する。
- ◆ 安全、持続可能、非暴力で包摂的な学びの環境を効果的に提供する。
- ◆ 「学びの4本柱」を強調する。
 - (i) Learning to know; (ii) Learning to do; (iii) Learning to be; and (iv) Learning to live together.
- ◆ 教育システム、教育政策を変革するための革新的、参加型で創造的な教育手法を開発・実践する。
- ◆ ユネスコスクールの3つの重点活動分野に集中する。
 - 地球市民教育、平和と非暴力の文化
 - 持続可能な開発と持続可能なライフスタイル
 - 異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重
- ◆ 国内外の学校、地域コミュニティなど様々なパートナーと交流、経験を共有する。

ESDをめぐる最近の動向

ESD for 2030

- ◆ 2019年秋のユネスコ総会で決定、12月の国連総会で承認。
- ◆ ビジョン：**ESDの強化とSDGsの17すべての目標の達成に貢献することにより公正で持続可能な世界を構築する。**
- ◆ 戦略目標：質の高い教育の鍵となる要素として、また**SDGsの17の目標すべてを実現するための鍵として**、ESDを推進する。その際、個人の変容、社会の変革、技術の進展に特に注意を払うものとする。



出典：
文部科学省

持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議

- 5月17日～19日ユネスコとドイツ政府主催で開催（オンライン）。（161か国から閣僚級70名を含む約2,800人が参加）
- ESDの新たな国際枠組み「ESD for 2030」の開始に当たり開催。
- 17日の閣僚級パネルディスカッションには、日本から萩生田文部科学大臣が出席。我が国のESDの取組を紹介
 - ①ESDの理念を公式に学校教育の中に位置付けていること
 - ②関係省庁が連携しオールジャパンでESDを推進していること
 - ③学校と地域が連携し地域課題の解決に繋げていること
- 会議の成果文書として、「**ESDに関するベルリン宣言**」採択。



ESDに関する議論を行う萩生田大臣とモロッコのハスナ王女

 - ＜「ESDに関するベルリン宣言の概要＞
 - ・2030年に向けて、SDGsの全ての目標達成の鍵であるESDを推進していくことを確認
 - ・ユネスコスクールなどユネスコが有するネットワークや資源活用
 - ・第26回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP26）などの重要な契機を見据えて、本宣言の内容を実現
- 世界的危機意識を踏まえ、予想以上に環境教育、特に気候変動教育、生物多様性教育を強調。

「ESDに関するベルリン宣言」[esdfor2030-berlin-declaration-en.pdf \(unesco.org\)](https://unesco.org/esdfor2030-berlin-declaration-en.pdf)

日本語仮訳：[持続可能な開発のための教育（ESD）に関するベルリン宣言：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://mext.go.jp)

第2期ESD国内実施計画（2021～2030年度）

- 2021年5月31日ESD関係省庁連絡会議決定

取組のポイント

令和3年5月
文部科学省・環境省

(旧)

我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」実施計画

1. 目標

持続可能な開発の進展を加速するための行動を起こし、拡大すること。

2. 基本的考え方

- (1) 優先行動分野の推進
- (2) ステークホルダーのコミットメントの促進
- (3) 国際アジェンダへのESDの反映

成果

3. 具体的取組

- ① 学習指導要領にESDの理念を反映
- ② ユネスコスクール等における学校全体でのESDの実施
- ③ ESD実践の手引き作成・活用
- ④ ユースの国際会議への参加
- ⑤ 全国的なESD支援のためのネットワークを整備

4. 重点実施項目

新規：上記を着実に実施するためのメカニズムとしての重点実施項目

(1) ネットワークの強化

- ・ 文部科学省と環境省が共同運営するESD推進ネットワークにおいて、
①情報共有機能、②相談対応や連携促進等の支援機能、③学び合いの促進機能、④人材育成機能 の4機能を整備
- ・ 関係ネットワークの重層化

(2) 情報発信の強化

国内外への情報発信を強化（成果の見える化、英文化）

(新)

第2期ESD国内実施計画
～ SDGs達成のための教育の推進 ～

赤字は強化ポイント

ESDの目的は、SDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すこと

- (1) **SDGs達成へのコミットメント**
- (2) **ステークホルダー間のパートナーシップの促進**
- (3) 優先行動分野の推進（継続）
- (4) 国際社会におけるESD推進の先導的役割

当面の取組

① 政策の推進

政府の各種推進計画にESDを記載するなど、各政策推進にESDの役割を位置付け
例：SDGs実施指針、学習指導要領、パリ協定に基づく成長戦略 他

② 学習環境の変革

- ・ 学習指導要領に基づき、教科横断で「持続可能な社会の創り手」の育成を推進
- ・ ICT化を通じた教育環境の充実
- ・ 地域と学校の協力によるESDの推進

③ 教育者の能力構築：教員及び様々な主体による幅広いESDの実施

- ・ **ESD推進の手引の改定、活用促進** ・ 教員研修の回数増、ICTを活用したオンデマンド研修の導入
- ・ 様々な立場のESD関係者による学びあいの場の設定・運営
テーマ例：気候教育、キャリア教育におけるSDGsの深化、企業と連携したESD、自然体験

④ ユースのエンパワーメント

- ・ ユース同士のコミュニティづくり（国内、国際）
- ・ **ユースによる実践・発信の促進**

⑤ 地域活動の促進：地域に根ざしたESDの実践から地域社会創りへ

- ・ **ESDによるローカルSDGsの推進**
- ・ **ESD推進ネットワークによる、地域の実態に応じた助言及び支援**

「持続可能な開発のための教育(ESD)推進のための手引」 (令和3年5月改訂版)



手引の背景と性格

手引はこちら

- 学校現場でESDを広めるには、実施する教員や教務担当が具体的なカリキュラムの組み立てや地域との関係づくりを理解することが必須。こうした手法をステップバイステップで解説するための手引き。教員向け研修等で広く活用することを期待。
- タイミングとしては、2020年度からESDの理念を盛り込んだ改訂学習指導要領が段階的に実施。国際的にも2021年5月に開催されたESD世界会議をキックオフとして、「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが本格始動。
- こうした学習指導要領の改訂や国際的な動向等も踏まえて、令和3年5月に改訂。

改訂のポイント

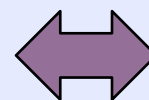
- ESD実践のポイントとして、ESD実践のためのカリキュラム・デザインや、学校内外での連携方法の促進について、内容を充実。
- 各学校等においてESDの実践が進むよう、具体的な取組事例の記載を充実。

学校と多様なステークホルダーが連携しながら、学校教育におけるESDの実践が進むよう各学校を中心に活用いただく。

主な活用先

各小・中・高等学校

大学や社会教育機関等の多様なステークホルダー 等



「ユネスコスクール新たな展開に向けて」（ユネスコ国内委員会教育小委員会）

（1）国際的視野に立ったユネスコスクールの方向性

- これまでの量的拡大方針は一定程度の役割を果たした。
今後はユネスコスクールの活動分野や活動手法において多様性を目指すことを大きな方針とする。
- 国内外においてESDの活動が幅広く求められる状況にあり、我が国において、ユネスコスクールがESD推進拠点としての役割を求める方向性は維持する。
- 他方、多様性を目指す方針から、ユネスコの理念をその教育に反映させているという国際的な基準を満たす学校についても、ユネスコスクールへの加盟申請ができるよう審査を行う。

（2）活動活性化のための方策

- ユネスコスクールに関するネットワーク機能の強化とビジビリティの向上を図ることにより、その活動の活性化を図る。
- ネットワーク機能の強化については、ユネスコスクール事務局等で実施する身近な研修機会をより活用するとともに、ユネスコスクール全国大会やユネスコ未来共創プラットフォーム事業を通じたユネスコ関係事業との連携強化を図る。
- ネットワーク機能強化につなげるためにも、ビジビリティ向上が重要。シンポジウムや大会といった活動での広報やウェブサイトの充実などを図るとともに、効果的な情報提供ができるよう日常的に活動の分析・整理を行う

（3）審査体制・基準の見直しと登録後の質の担保

- 審査体制については、ASPUnivNetの担う審査業務を切り離す方向で、詳細を関係者間で早急に結論を得る。
- 基準について、ユネスコで定められた基準と国内で求められる活動の関係を整理・明確化する。
- 登録後の扱いについて、活動の質を担保するための方策として、メンバーシップ期間をおき、定期的なレビューを行うことを検討する。
- 長期化するユネスコへの申請を踏まえ、申請中の学校を「ユネスコスクールキャンディデート」（仮称）と位置づけ、国内におけるユネスコスクールネットワーク加入や活動を可能とする。

ユネスコスクールの新たな展開について（文科省通知）

- ◆ 日本ユネスコ国内委員会教育小委員会による報告の通知と 一時中断していたユネスコスクールの申請手続き再開のお知らせ

1. 登録申請期間の長期化に伴う仕組みの導入

「ユネスコスクール・キャンディデート」制度の導入： 追って日本ユネスコ国内委員会から通知を発出するとともに、ユネスコスクール事務局から具体的なネットワーク活動への参加方法について案内。

2. 審査基準及び審査体制の見直し

ユネスコ本部の基準と我が国がユネスコスクールに求めている活動との整合性を図るため、**国内の基準の整理**を行っており、今後 整理がつき次第、改めて連絡。

なお、**令和2年6月以前にチャレンジ期間を開始している学校**については、現在の基準及び審査体制にて申請手続きを実施。

3. 登録後の質の担保

現在は、ユネスコスクール登録後、年次報告書の提出を要求、その際に認定継続・解除希望調査を実施。認定解除を希望する学校、2年連続で年次報告書が未提出の学校は認定解除。その他の学校は自動継続。

ユネスコの制度においては、メンバーシップ期間（3～5年）が導入され、必要な条件が満たされた場合に、更に3～5年の更新が可能。

登録から経年したユネスコスクールの活動低下が指摘されていることから、その活動の質を担保していくために、**定期的なレビューの導入について検討。**

文科省通知のフォローアップ

- ◆ 6月24日、ユネスコスクール事務局から保留となっていた2020年9月・2021年3月・2021年9月申請対象校のチャレンジ期間終了可否判断のスケジュールが確定した旨ASPUnivNetに通知。
 - 7月から2020年9月申請対象校（74校）の可否判断を開始。11月に国内審査結果を通知。11月以降、キャンディデート校登録準備を実施。
 - 9月から2021年3月申請対象校（26校）の可否判断を開始。2022年1月に国内審査結果を通知。1月以降、キャンディデート校登録準備を実施。
 - 11月から2021年9月申請対象校（28校）の可否判断を開始。
- ◆ 9月10日、ユネスコスクール事務局からユネスコ本部への正式加盟手続きであるApplication Formの入力を行うよう、2018年6月申請校（該当18校）へ通知。
- ◆ **ユネスコスクール意見交換会**：12月21日（火）16:00～17:30 オンライン開催
「ユネスコスクールの新たな展開について」ユネスコスクール・ナショナルコーディネーターである文科省堀尾統括官補佐からお話いただく予定。

対象者はユネスコスクール加盟校、キャンディデート校、申請中の学校、申請を検討している学校、ユネスコスクールを担当している教育委員会等関係者、ASPUnivNetなど。

申し込み先URL：<https://ws.formzu.net/fgen/S54703959/>

締切：12月19日

第13回ユネスコスクール全国大会

- ◆ 2021年11月27日オンライン方式で開催。
- ◆ 東北大震災からの10年を踏まえた基調講演が行われるとともに、わが国のユネスコ加盟70周年を記念する特別座談会が企画された。
- ◆ ESD大賞表彰式で、福井県勝山市立平泉寺小学校が小学校賞を受賞した。北陸で2件目の受賞。
- ◆ 以下のURLから申し込むことにより、2020年2月18日までオンデマンド配信の視聴が可能。

<https://business.form-mailer.jp/fms/81259727157000>